

FIRST LANGUAGE JAPANESE

Paper 2 Reading and Directed Writing

0507/02

May/June 2015

2 hours 15 minutes

Candidates answer on the enclosed Answer Booklet.

No Additional Materials are required.

READ THESE INSTRUCTIONS FIRST

Write your Centre number, candidate number and name on all the work you hand in.

Write in dark blue or black pen.

Do not use staples, paper clips, glue or correction fluid.

DO NOT WRITE IN ANY BARCODES

Answer **all** questions.

The number of marks is given in brackets [] at the end of each question or part question.

受験生への諸注意

全ての提出物（解答用紙、その他）に、センター番号・受験番号・氏名を記入しなさい。
黒または濃い青色のペンを必ず使用すること。
ホッチキス（ステープラー）やペーパークリップ、のり、および修正ペンなどの使用禁止。
バーコードには、一切何も書かないこと。

すべての問題に答えなさい。

配点は各設問の最後にある[]内に示されています。

This document consists of **7** printed pages, **1** blank page and **1** inserted Answer Booklet.

パート1

次の【A】と【B】は、日本企業の「文書のデジタル化がもたらす影響」に関する記事です。二つの文章を読んで、後の問1と問2に答えなさい。

【A】教材・学内文書のデジタル化で紙の消費量半減

書類や資料のデジタル化が進むたびに、紙の消費量が増え続ける。こんな皮肉な現象に、電子ブック端末で歯止めをかけることはできないか。昨年秋から今年初めにかけて、米プリンストン大学が実験に取り組んだ。

以前から、授業に用いる参考資料や学内文書のデジタル化を推進してきたが、結果は想定外ともいえる「紙消費の増大」をもたらしていた。「この5年間、学内の紙の使用量は毎年20%ずつ増えてしまったのです」と情報技術担当のサージ・ゴールドスタインは言う。

なぜか。「まず、パソコン画面で大量の文書を読むのを、みな嫌がった。バックライトの明かりが目の負担となるからだ。メモ書きや、マーカーで印を付けることもできない」とゴールドスタイン。結局、昨年はA4用紙換算で約5000万枚の紙が使われ、紙代・印刷代も500万ドルに膨らんだ。

電子ブック端末の実験には、西洋史や政治学など3クラスの計51人が参加した。画面が一回り大きく、教科書の表示にも向くA社の電子ブックを渡し、授業で使う電子書籍や資料はなるべく端末で読むように求めた。どこまで紙の代わりになるのかを確かめるのが狙いだった。

結果は5割減。予想を遥かに上回る効果だった。「ここまで減るとは想像もしなかった」と教育技術センター長のジャネット・テモス。「米国の中東政策と外交」の授業では、電子ブック利用者の平均の紙使用量が962枚なのに対し、非利用者は1826枚。「市民社会と公共政策」ではそれぞれ762枚と1373枚――。

テモス自身、電子ブック端末を愛用している。「普通に本を読むのには、とても優れている」。自宅では居間用、寝室用と端末を使い分け、それぞれ数百冊分の本を放り込んである。金曜日にはニューヨーク・タイムズ紙のベストセラー欄で、気になる本をピックアップし、手元の端末から購入する。「新刊本のハードカバーは、ふつうの本屋なら時に30ドルもする。オンライン上の電子ブックストアなら9ドル99セント。しかも、思いついたらその場で買える」。

ただし、実験では電子ブック端末の弱点も指摘されたという。たとえば、アンダーラインは引けるものの、パソコンと同様、メモ書きやマーカーはだめ。学生は不満を募らせた。「大学や研究機関など学術向け市場には、もっと機能を充実させる必要があります」。実験結果はA社にも伝え、大学教育でも使える端末の開発を求めたという。

【B】紙でなければならない「何か」を感じる場所、台北の紙博物館

中国で生まれた紙の歴史を学びながら、その美しさや温もりに触れることができる、小さな博物館が台湾にある。台北市の「樹火紀念紙博物館」だ。製紙会社の創立者・陳樹火さんの遺志を継ぎ、台湾の紙文化の伝承を願って95年に開館した。素朴な紙の質感を生かした展示を見ていると、電子では表現しきれない紙ならではの存在感が伝わってくる。

4階建ての細長い建物に入ると、和紙のような風合いの色とりどりの紙が目飛び込んできた。ミュージアムショップには、紙製の皿や敷物、ノート、はがきなどが並んでいる。部屋の角には青と黄色の大きな花が展示されていた。和紙デザインを手がける日本の小林順子さんの作品だという。1階の一番奥は、手作業による伝統的な紙づくりの工房だ。傍らの紙製ボードには、陳樹火夫妻の写真とともに博物館がつくられた経緯が書かれている。「紙はたくさんのことを教えてくれるということを、彼は知っていました」。どんなことなのか。気になりながら、階段を上った。絵本の中に飛び込んだ——そんな感覚に襲われる空間が、2階に広がっていた。中心には大きな木が1本立っている。ふさふさとした緑の葉っぱを含め、すべて紙でできている。根もとには座布団が敷かれ、若い女性がゆったりと本を読んでいた。ここは、紙にまつわる作品がおかれた特別展示室。

通路には、暖かい色合いの灯りがともる紙製のランプシェードがぶらさがっていた。ここ台湾では商売繁盛の願いをこめた飾りとして、店先にプラスチックなどでできたパイナップルが掲げられる。それを環境に配慮した紙製にしようという、台湾人作家のアイデアだ。3階には、紙の歴史を学べる常設展示室が設けられていた。二千年近い昔、現代に通じる製紙技術を編み出したとされる中国の蔡倫が、どのように紙をつくったのかを示したイラストに見入る。台湾の紙の歴史と日本との関わりや、竹からつくった紙を燃やして祖先供養の儀式に用いる台湾の習わしなども紹介されていた。重たそうな紙づくりの機械も並んでいる。

屋上の4階では、竹を編んだ大きなかごのような部屋の入り口に「裸足で入ってください」との表示。靴を脱いで入ると、紙製の灯りがあちこちに飾ってあり、ふっと落ち着いた。パンフレットには、台湾の作家の次のようなコメントが記されていた。「便利な台湾では、きちんと食べたり身だしなみを整えたり、心地よい風を感じたりすることも忘れがちです。美しさの意味を心から感じるには、少しの自己管理とねばり強さも必要ですよ」。

この博物館に来たのは、紙の歴史と行く末を知りたかったからだ。電子媒体がもっと進化していけば、いずれ紙はなくなってしまうだろうか。受付で働く李郁芬さんは、「なくなる派」だ。「だって、紙がなくなったらこの博物館にあるような素敵なものを、いったいどうやってつくるの？」人間が「記憶」をとどめるために発明し、長い間もっとも便利だった紙。「メディア」としての機能は、いずれ電子ペーパーにとって代わられるかもしれない。だが、同時に、紙を通して育んできた文化のあたたかさを、果たして電子媒体は引き継ぐことができるだろうか。

問1【A】と【B】の記事を読んで、「文書のデジタル化がもたらす影響」に対する人々の思考や言動について【A】、【B】、それぞれの主要な点を要約し、共通点や相違点を簡潔にまとめなさい。その際、記事から表現を直接抜き出すのではなく、なるべく自分の言葉を使って書きなさい。文字数は、500字から600字とします。

[20]

問2【A】もしくは【B】の記事に関するあなたの考えを新聞の読者投稿欄に送るため、300字程度で文を書きなさい。例を挙げながら問題点を指摘し、解決への具体的な提案をしなさい。

[20]

パート2

問 次の 3~7 の空欄（ ）に下のア~エの中から最も適切な答えを一つ選んで、記号で答えなさい。

3 石油などの資源は、近代的な生活を継続する為に、なくては（ ）ものです。

- | | | | |
|---|------|---|------|
| ア | よくない | イ | なさそう |
| ウ | ならない | エ | よさそう |

[1]

4 「キャンペーン中に商品を2点以上ご注文頂いたお客様には、3点目を無料で（ ）ます。」

- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| ア | お取り上げ | イ | 差し上げ |
| ウ | 巻き上げ | エ | お買い上げ |

[1]

5 三人の中では、山田さんが（ ）歌が上手です。

- | | | | |
|---|----|---|-----|
| ア | より | イ | もっと |
| ウ | 最高 | エ | 一番 |

[1]

6 日本語で作文を書くのは、（ ）簡単です。

- | | | | |
|---|-----|---|-----|
| ア | 意外に | イ | 既存の |
| ウ | 存外な | エ | 意表を |

[1]

7 弟はソファで宿題をしていましたが、本を（ ）まま、寝てしまいました。

- | | | | |
|---|-----|---|-----|
| ア | 持ち | イ | 持つ |
| ウ | 持って | エ | 持った |

[1]

問 次の 8~12 の空欄（ ）に下のア～エの中から最も適切な答えを一つ選んで、記号で答えなさい。

8 総会では、平和と安全に関する（ ）が出されました。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ア | 勧告 | イ | 被告 |
| ウ | 忠告 | エ | 宣告 |

[1]

9 あの子は本当にいたずらっ子で（ ）に負えない。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ア | 目 | イ | 肩 |
| ウ | 手 | エ | 気 |

[1]

10 国際連合には、現在193カ国が（ ）しています。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ア | 同僚 | イ | 加担 |
| ウ | 同盟 | エ | 加盟 |

[1]

11 また京都を訪れる（ ）があったら、是非とも大文字焼きを見てみたい。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ア | 機知 | イ | 機会 |
| ウ | 予防 | エ | 予測 |

[1]

12 様々な国からの移民文化で（ ）に満ちた社会です。

- | | | | |
|---|-----|---|-----|
| ア | 汎用性 | イ | 順応性 |
| ウ | 多様性 | エ | 居住性 |

[1]

問 次の 13~17 の下線で示されたそれぞれの言葉と同じ意味を持つ表現を一つ、各文章にあてはまる文法の形で書きなさい。（例：下記の住所に引っ越しします→下記の住所に移転します）

13 調理器具を選ぶなら、やっぱりデザインより機能性が大切だ。

14 あの人は本当に天真爛漫ですね。

15 物価の上昇率は、国民の暮らし向きを表している。

16 一緒に始めたプロジェクトなのに、忙しくなったら全部私に任せるなんて、そんなの虫がよすぎるよ。

17 震災以来、地元の教職員組合は、地域復興支援の一翼を担ってきました。

[5]

問 次の 18~22 の下線の単語の品詞名を下から選んで記号で答えなさい。

職業は、人々にとって生活に必要な収入を得る ¹⁸手段であるが、それだけではない。自分の能力や適性を ¹⁹生かし、生きがいのある仕事に取り組むことは、人生における ²⁰大きな喜びの一つでもある。
²¹また、仕事を通して社会に貢献することで、自分の「居場所」を確認できるという人 ²²もいる。

ア 形容動詞	イ 副詞	ウ 助詞	エ 接続詞
オ 助動詞	カ 感動詞	キ 形容詞	ク 名詞
ケ 連体詞	コ 動詞		

[5]

BLANK PAGE

Permission to reproduce items where third-party owned material protected by copyright is included has been sought and cleared where possible. Every reasonable effort has been made by the publisher (UCLES) to trace copyright holders, but if any items requiring clearance have unwittingly been included, the publisher will be pleased to make amends at the earliest possible opportunity.

To avoid the issue of disclosure of answer-related information to candidates, all copyright acknowledgements are reproduced online in the Cambridge International Examinations Copyright Acknowledgements Booklet. This is produced for each series of examinations and is freely available to download at www.cie.org.uk after the live examination series.

Cambridge International Examinations is part of the Cambridge Assessment Group. Cambridge Assessment is the brand name of University of Cambridge Local Examinations Syndicate (UCLES), which is itself a department of the University of Cambridge.